

補足資料

日米ネットワーク仮想化テストベッドの相互接続

日米のネットワーク仮想化テストベッドの相互接続のために、今回 NICT はユタ大学と共同研究契約を結び、日本の仮想化ノードシステムの一部を、ユタ大学キャンパス(米国ユタ州ソルトレイクシティ市)に設置して、米国 ProtoGENI システムとの接続を実現しました。

これにより、一つの物理ネットワーク上で複数の異なるネットワークサービスが相互に影響を与えることなく、あたかも別々のネットワークが存在するような状況を日米間に作ることが可能となり、今後、ネットワークの新しい利用のための研究開発が国際的な視点で進展することが期待されます。

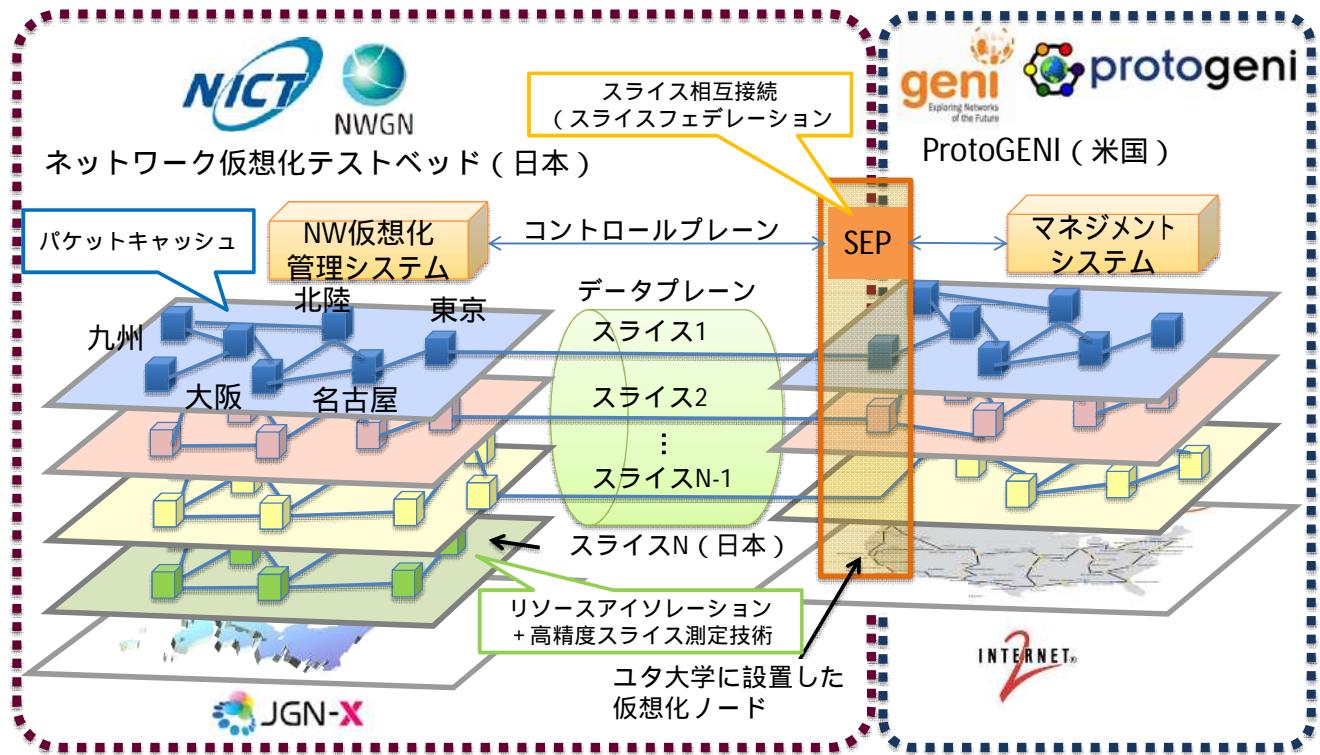
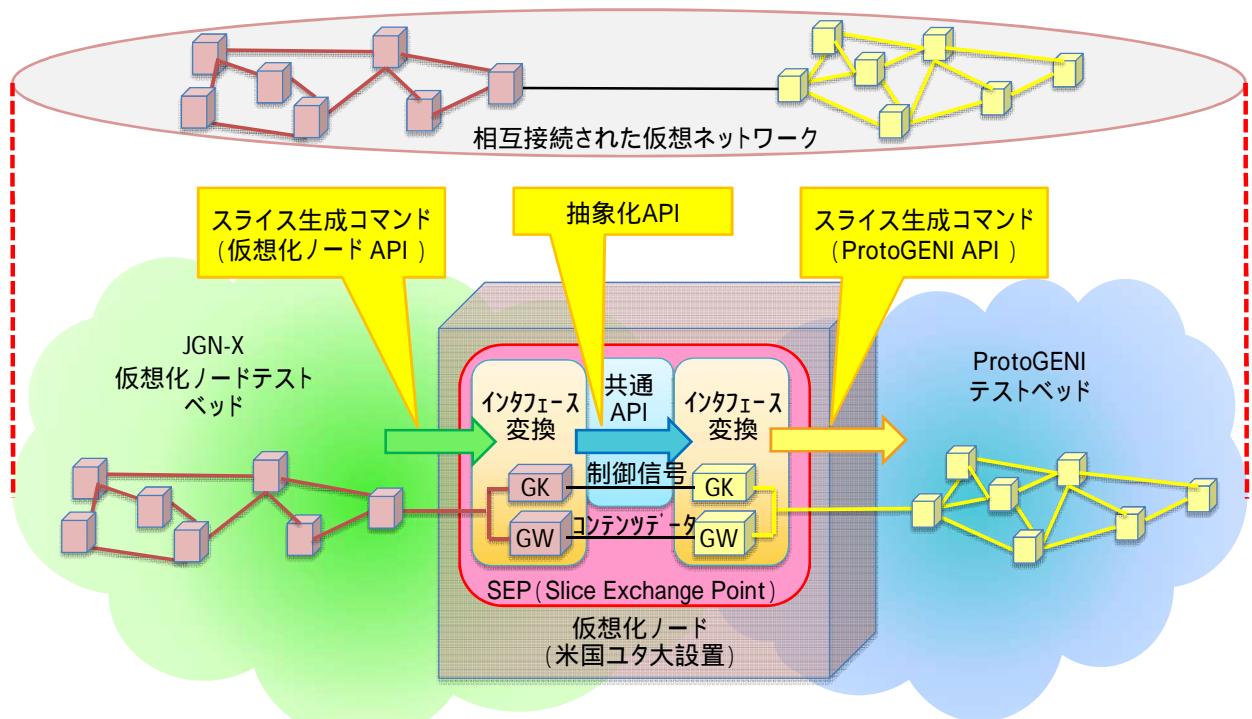


図 1. 実験全体概要



GK(GateKeeper):制御信号用インターフェース変換機能
GW(GateWay):コンテンツデータ用インターフェース変換機能

図2. スライス相互接続(スライスフェデレーション) 概要図

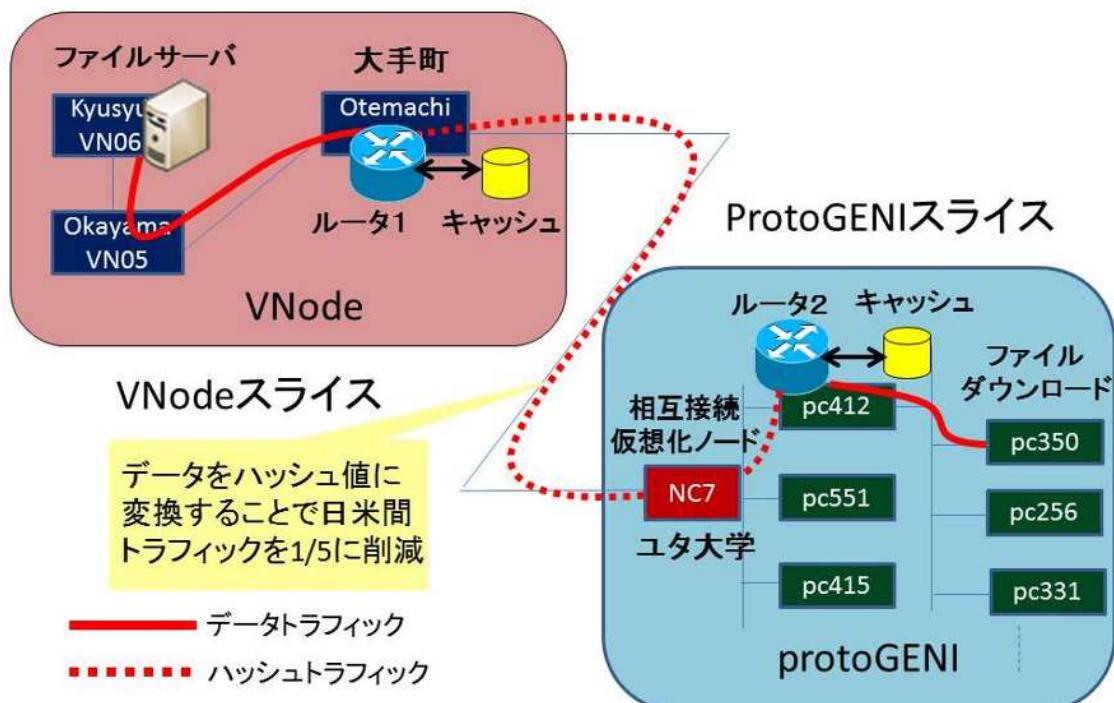


図3. パケットキャッシュ 概要図

従来のネットワーク仮想化技術では難しかった通信品質(パケット通過量、遅延時間)の保証が可能となり、高品質なサービス提供に向けて大きく前進

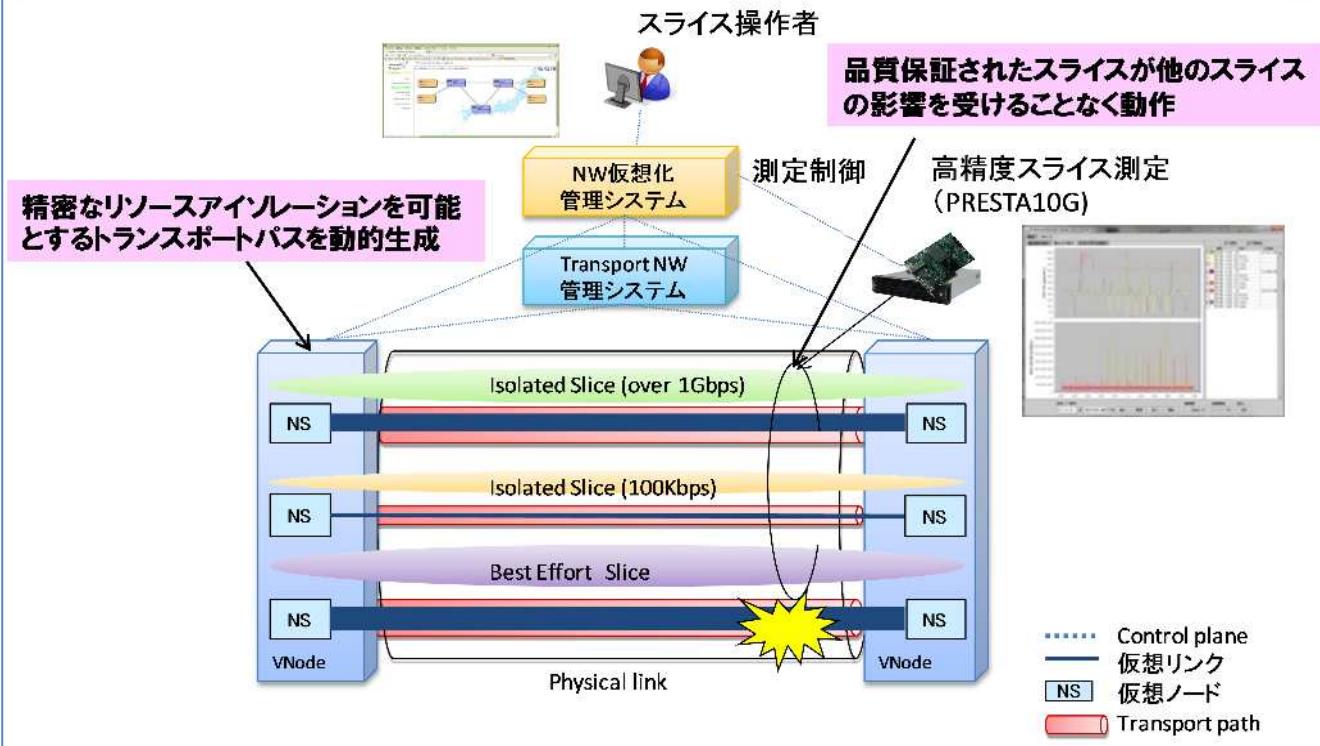


図 4. リソースアイソレーション + 高精度スライス測定技術 概要図

以上